



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の育成を行います

第25回 人吉医療センター研究発表会・春の総親会総会



4月21日(土)人吉市カルチャーパレス 大ホールにおいて第25回人吉医療センター研究発表会を開催しました。今回は院内スタッフから一般演題に7題の発表がありました。

また、今年是人吉総合病院からJCHO人吉医療センターになって5年目という節目の年になります。今回は一般演題発表後、JCHO人吉医療センターになって1回目の研究発表会で行った形式と同じく『地域の医療を未来へつなぐ～私達のミッション～』と題し、平成30年度部内目標を基に“現状～目標～計画”が各部署から発表されました。なかなか他職種の業務内容というのは分かりづらいものです。今年度から新しく訪問看護ステーションの部署も新設され、今回の発表では他職種の日々の取り組みや課題を把握し理解を深めることが出来ました。地域の皆様に質の高い医療を提供できるよう、これからの目標の再確認をする機会となり、更なるレベルアップを目指していきたいと思いました。

また、後にアンジェリーク平安にて春の総親会総会が行われました。今年度は39名の新任職員が入り、ステージ上で1人1人紹介がありました。その他、当院の部活動発表がありフットサル部やコーラス部など部の代表から紹介がありました。

No	演題名	演者
第1セッション 座長 平賀 円 / 前田 恵美		
1	化学療法室利用患者の動向	矢立 雅章
2	患者の足を救いたい!～救肢に向けた活動報告～	根笹 真由美
3	骨吸収抑制薬関連顎骨壊死(ARONJ)の当科における臨床統計および症例供覧	野村 昌弘
第2セッション 座長 井上 博貴 / 上村 慎作		
4	当院6年間の廃棄率と廃棄要因	岩崎 李歩
5	臨床工学部による医療機器管理における現状と課題	内布 陽平
6	当院での256列CTによるODMの基礎検討	赤池 愛美
7	胸部放射線治療時の位置合わせ撮影の条件検討について	木原 成基
各部門発表 座長 薬師寺 俊剛 / 入部 直子 / 岩崎 ユリ / 西山 三智		
『地域の医療を未来へつなぐ～私達のミッション～』 平成30年度部門目標より		
	部署名	発表者
1	医局	総合診療科部長 田浦 尚宏
2	事務部	事務部長 作元 功
3	予防医療センター	管理課長 前田 克美
4	治験センター	治験コーディネーター 岩崎 ユリ
5	看護部	看護部長 入部 直子
6	訪問看護ステーション	副看護師長 藤田 恵子
7	歯科	歯科衛生士 松永 千恵
8	薬剤科	副薬剤科長 嘉村 基樹
9	画像診断センター	診療放射線技師長 井上 義晴
10	臨床検査部	副臨床検査技師長 杉本 勝郎
11	臨床工学部	臨床工学技士長 上村 慎作
12	リハビリテーションセンター	リハビリテーション士長 米倉 正博
13	栄養管理室	主任栄養士 中村 利枝
14	医療福祉連携室	主任医療社会事業専門員 南 秀明

最後に研修医の耕先生の出身校、熊本高校の伝統応援“げんこつ”で春の総親会の幕を閉じました。

画像診断センター 赤池 愛祐美

ご挨拶

五木村診療所長 早川 香菜美



こんにちは。今年度より新たに五木村診療所長を拝命いたしました、早川 香菜美と申します。

これまでは熊本大学医学部附属病院、熊本赤十字病院でそれぞれ1年間初期研修を行い、今年の4月より人吉医療センターに勤務しております。出身は熊本県熊本市で

栃木県にある自治医科大学で医学を学びました。前任の南（水橋）由美子医師の大学の後輩にあたります。

新参者ではありますが五木村診療所長として村の医療に精一杯貢献できればと考えております。見かけた際は、お気軽にお声をかけてください。

眼科 伊良波 諭



平成30年4月から勤務しております伊良波諭と申します。よろしくお願いたします。

私は大学院を修了後、3月まで熊本大学附属病院で勤務しておりました。引き続き大学病院と連携しながら診療に取り組んでまいります。

当科は主に、白内障、緑内障、糖尿病網膜症、翼状片、ドライアイ、アレルギー性結膜炎などの疾患を診ております。総合病院ですので、他科との連携を密に行ってお

ります。手術は主に白内障と翼状片手術、レーザー光凝固術などを行っております。かすみ、飛蚊症、ゆがみ、かゆみ、乾燥などの眼の症状がございましたら、お早めにご相談ください。

およそ9年にわたって人吉医療センター眼科で勤務されておりました中村行宏先生の後を継ぎ、これからも地域の皆様のお力になれるよう尽力します。何卒、宜しくお願致します。

診療放射線技師長 井上 義晴



このたび、4月より診療放射線技師長として天草中央総合病院より異動してまいりました井上義晴と申します。よろしくお願いたします。

生まれも育ちも天草で地元の高校を卒業後、北里大学付属の臨床検査技師学校を卒業して一度臨床検査技師として就職しました。ですがどうしても検体検査が多い検査技師の仕事に魅力を感じず診療放射線技師の道を選択しました。東京では国立病院に32歳まで勤務し、その後天草中央総合病院に25年間勤務して今に至っています。

私の技師としての座右の銘は、国立時代仲が良い脳外の先生がよく言っていたのですが『患者様は自分の両親や子供と思って接しなさい』です。両親や子供ならば手を抜いた事は出来ないだろう。このことを常に考え診療放射線技師として診断価値のある画像提供をしていこうと考えております。また、職場の垣根を超えたチーム医療も非常に大切と考えております。

ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますがご指導のほどよろしくお願い致します。

看護部オリエンテーションプログラム

私たち平成30年度新採用者は、入社式当日から8日間かけて看護部オリエンテーションプログラムを受けました。基本的な看護技術、接遇、医療安全、記録方式、PNSマインド、PDCAを使った学び方など、看護師として実際に働くために必要な知識を、時間をかけて学び、全てにおいてなぜ必要なのか、根拠を基に講義していただきました。

私は今年国家試験を受けましたが、学内で学んだ技術と実際日々変化する臨床の場では異なることもありました。医療は常に進歩しています。看護も同じで、新しい技術を学び続ける必要があることを強く感じました。また、グループワークなども取り入れられていて楽しく学ぶことができました。



病棟で働き始めて1ヶ月がたちます。毎日の看護の場面で学んだことが活かされています。これからも研修は続きます。私自身の課題を明確にし、めざす看護師像を見つけ目標をもって取り組んでいきたいと思ひます。

5階西病棟 看護師 永峰 里紗

チームで支えるがん治療

「認定がん専門相談員」と「認定がん医療ネットワークシニアナビゲーター」について

当院は地域がん診療連携拠点病院です。がん医療の均てん化の為にがん相談支援センターにがん専門相談員を配置し、地域全体の相談窓口となるべきことが要件の一つとなっています。私はこの度、更に経験を積んだ者として「国立がん研究センター認定がん専門相談員」となりました。県全体も視野に高度ながん相談対応が求められることとなりますが、がん相談支援センターの認知度の低さ、数的限界など課題もあります。そこで、癌治療学会が独自に、地域でがん診療に関する啓発、情報収集・提供、助言・提案・支援、がん相談支援センターへのつなぎを担う存在として育成するのが、「認定がん医療ネットワークナビゲーター」(以下、がんナビ)です。これは「ナビゲーター」と「シニアナビゲーター」の2段階があり、医師、看護師、薬剤師、クラーク、ピアサポーター、

介護職などが認定を受けています。当院では私がシニアナビゲーターの認定を受け、歯科口腔外科の野村先生も近くシニアナビゲーターの認定を受けられる予定です。更に私は日本癌治療学会のがんナビ制度検討WG委員としても活動しており、学会としてがんナビの数を全国で1000人にすることを目標としています。是非、皆さんにも認定を受けていただき、知人の方々へもご案内いただければと思います。多くの方が認定を受け活躍いただくことで、地域のがん相談支援ネットワークが広がれば思います。地域包括ケアシステムの構築に向けた地域の土壌づくりとしても、重要なことと考えます。がんナビの概要や取得方法は下記の通りです。よろしく願いいたします。

医療福祉連携室 南 秀明

がん病態栄養専門管理栄養士 資格を取得して

がん患者においては、疾病や治療に伴う影響、精神的な苦痛等、複数の原因が重なればしばしば栄養管理が困難な状態となります。これを円滑に行うには、がんに関する高度な知識と専門技術を有する管理栄養士が必須であることから、日本病態栄養学会で「がん病態栄養専門管理栄養士」の認定を開始しました。

がん患者の栄養管理は様々で、外科治療(術前)は食欲不振で低栄養また、嚥下障害や通過障害で飲み込みが困難な方、肥満のため減量の必要な方がいます。化学療法・放射線治療中の方は口内炎や味覚障害などの有害事象で食事摂取不良になり、それぞれの症状に合った食事内容を提案します。緩和ケアの栄養管理は、積極的な栄養補給よりもQOLの向上と病状の緩和に重点を置き、その時々々の症状に対応していきます。

私は現在、外来の化学療法室を担当させて頂いています。患者さんは多くの不安を抱えて治療に臨まれるため基本の食事は、「楽しく、おいしく」で、あまり神経質になる必要はないと話していますが、体力の維持や感染を防ぐためにはバランスの良い食事を心がけるような指導も行います。今は食事が十分に摂れない方のために、飲むだけで手軽に栄養を摂ることができる栄養補助食品があり食事と併用していくことも可能で、「サプリメントみたいな物があると落ち着きます。」と言う言葉も聞かれます。今後も患者さんの症状や好みに合った食事が提案できるようまた、色々な場所でも発揮できるよう努めて参りたいと思います。

栄養管理室 大岩 洋子

褥瘡対策の取り組み

昨年7月より、褥瘡対策のため、専従看護師として活動をしています。

活動内容は、主に褥瘡対策に関する業務を行い、月2回ストーマケア外来をしています。専従となり、まずはこれまでの褥瘡対策について見直すこと、褥瘡ハイリスク患者ケア加算をとることを行ってきました。これまでに行ってきた褥瘡対策の変更は、ベッド上で患者の体の下にバスタオルを敷かないようにしてもらい、患者の体位変換のためにスライディングシートを導入しています。他に、エアマット使用時のシーツのずれも褥瘡発生要因であるため、シーツの変更も行っています。ポジショニングクッションについても、購入のための使用状況調査を行い、データをまとめ、購入につなげていくところです。

褥瘡回診も多職種で月1回行っていましたが、医師の協力が得られ、他の週も褥瘡対策カンファレンスや回診を行うことができるようになりました。週1回の



褥瘡カンファレンスの他にも病棟から褥瘡発生・持込の連絡を受けた時にはすぐに対応できるようにし、医師の介入が必要な時には連絡調整を行い、タイムリーに患者に合わせた褥瘡対策が行われるようにしています。

今後も皆さんのご協力を得ながら、褥瘡対策が向上できるよう活動してまいります。

看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 繁富 香

『地域の医療を未来へつなぐ～私達のミッション～』平成30年度 各部署目標報告

治験センター

1、臨床研究・市販後調査におけるかかりつけ医との連携、医療の質や機能向上の支援

連携

- ・臨床研究・市販後調査の調査項目を通して、経過観察の徹底を図る
- ・登録後の追跡率90%以上を目指す

医療の質や機能の向上

- ・臨床指標の開示（受託内容・実施状況・完遂率などのホームページ公開）
- ・倫理審査委員会（REC：研究倫理）議事録概要のホームページ公開
- ・経過観察事項および継続観察の必要性の情報提供（地域医療活性化への寄与）
- ・JCHO 多施設共同研究における倫理視点の情報提供

2、臨床研究法施行および統合指針に伴う研究体制整備

- ・研究臨床研究法施行（H30年4月）に伴うインフラ整備

倫理審査…学会発表、データ提供時の審査整備
 近隣医療機関等からの倫理審査依頼時の支援準備
 研究者研修の継続

- ・医師・部署責任者…ドクターズ会にて定期開催
- ・メディカルスタッフ…看護部指導者、研修希望部署

3、臨床研究および治験等の推進

- ・EBM 推進のための研究及び治験の実施：多施設共同試験の参加・実施率向上
- ・母数調査を実施し、積極的に受託可能試験・調査を積極的に実施する
- ・スクリーニングシステムの活用…根拠不明の登録漏れを防ぐ
- ・多職種のカンファレンス継続…カルテ機能を生かし、観察項目を共有しプロトコル遵守・遂行のため関連部署と連携を図る
- ・院内継続研修の企画と実践

治験センター 岩崎 ユリ

栄養管理室

1. 栄養指導の充実

- ①入院初回栄養指導の強化
- ②入院・外来個人栄養指導（加算・非）の件数3,000件/年
- ③在宅患者への食事栄養指導の拡充

2. 患者の食事満足度を高める食事サービスの実施

- ①食欲不振患者に提供する食種の新設
- ②治療食摂取患者の満足度向上

3. 病院管理栄養士としての資質向上

- ①定期的な勉強会の開催
- ②学会発表や資格取得に向けた基盤作り
 入院前や入院後早期の栄養評価や指導は、患者様に好影響を及ぼした満足度を高めると考えられます。そのためには質の高い栄養管理を行えるよう、研鑽を重ねていきたいと思っております。

栄養管理室 大岩 洋子

医療福祉連携室

①医療機能の分化を促し、地域レベルでの連携強化

- ・逆紹介の推進にて外来機能の向上を図り、紹介患者への診療の充実を目指す。
- ・新規導入機器の診療実績など紹介患者の転帰に関する情報を開業医等へフィードバックし、紹介の増加を図る。
- ・医療機関等への訪問強化にて、紹介の新規開拓・掘り起しを行う。

※紹介にあたり、診療情報提供料（1）の算定を確実にする。

②地域包括ケア・地域医療サポーターのための住民教育支援

- ・病院サポーター制度の充実と発展
- ・地域の中核病院として訪問看護と後方支援病院の実績を向上させ、地域包括ケアに寄与する。
- ・各勉強会開催・医療機関等訪問・各地域協議会等への参加などを通して医療・福祉・行政の連携を進める。

③入退院支援への取り組みの強化

- ・入院時からの退院支援の体制づくり
- ・入退院一貫した支援の強化にて、昨年に引き続き入退院加算算定5%-10%の増加を図る。
- ・介護支援等連携指導料算定の増加を図る。

医療福祉連携室 南 秀明

**連携施設
探訪**

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域 包括ケアを推進していきたく考えています。

そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は「球磨村高齢者生活福祉センター せせらぎ」「神瀬福祉センター たかおと」と「特別養護老人ホーム 鐘ヶ丘ホーム」「地域密着型特別養護老人ホーム 鐘ヶ丘ホームいちふさ」さんです。

「球磨村高齢者生活福祉センター せせらぎ」「神瀬福祉センター たかおと」 Vol.18

【施設の特徴】

高齢者が安心して健康で明るい生活を送れるように、介護支援機能や居住機能及び交流機能を総合的に提供し、高齢者の不安の解消や介護者世帯の負担を軽減させる在宅福祉サービスの拠点施設となっております。デイサービスでは1日20名の方が利用されており、入浴は温泉を利用できます。日中は機能訓練やカラオケ、レクリエーションも行っていますが、利用者の方のご希望を伺いながら個性を大事に過ごして頂いております。また、買い物や花見、食事会など季節に応じた行事も開催しております。

【対象者】

おおむね65歳以上の要介護老人及び身体に障害があって日常生活を営むのに支障がある方。

おおむね60歳以上の方で研修・レクリエーション等地域住民の交流の場として利用可能。

【サービス内容】

- 「せせらぎ」 ・ デイサービス ・ 居宅支援事業
 ・ 訪問介護事業 ・ 居住機能
 ・ 研修・レクリエーション等地域住民の交流の場
 「たかおと」 ・ デイサービス

【地域の皆様に一言】

デイサービスなどの要支援者の方以外にも老人会など交流の場としてもご利用いただいております。

また、近くに「一勝地温泉 かわけみ」があり、施設内に温泉を引いているため、65歳以上の方などでもご利用が出来ますのでぜひご利用下さい。(月～金 10:00～15:00 ￥100)

生活上の不安や福祉相談など様々な相談を受け付けていますので、

お気軽に何でもご相談下さい。職員一同十分に対応させていただきます。

【お問い合わせ先】

Tel:0966-32-0022

球磨村高齢者生活福祉センター せせらぎ 松舟 大吾



せせらぎ 外観



せせらぎデイサービスセンター



たかおと 外観



たかおと内

【訪問者の感想】

球磨村の清流のすぐそばに建つ2階建ての建物の中にはデイサービスや居住スペース、地域交流室があり、とても多機能な施設でした。中は広々としており、何とんでも入浴は温泉が利用できるということによってゆったりとした時間を過ごせる素敵な場所だと感じました。また、相談内容に応じて十分に対応していきまるとの力強いお言葉を頂き、福祉の拠点の一つとして心強く感じました。

**「特別養護老人ホーム 鐘ヶ丘ホーム」
「地域密着型特別養護老人ホーム 鐘ヶ丘ホームいちふさ」 Vol.19**

【施設の特徴】

Head (知恵や知識)・hert (真心や感性)・hart (援助や技術)を合言葉に、利用者の方々にくつろぎのある楽しい生活を提供します。

居住施設は豊かな自然に囲まれた立地条件を活かし、環境を整備し居住される方にとって美しい我が家となります。

在宅サービスは、地域のコミュニティケアの拠点として、高齢者の福祉の発信基地となるべく、地域との交流を図ります。

【対象者】

要介護3以上の認定を受けられている方
 ショートステイ、デイサービスは要支援1～要介護5の認定を受けられている方

【サービス内容】

- 入所介護
 居宅介護支援事業所
 通所介護 (定員:1日あたり20名)
 短期入所 (定員:12名)
 訪問介護

【地域の皆様に一言】

それぞれのホームに入居された方々の、日々の穏やかな暮らしを支えながら、地域の皆様が、これからも住み慣れた我が家で暮らし続けるために、地域に出向き、介護予防や認知症予防にも取り組んでまいります。丘の上の鐘の音のように、地域で暮らすひとりひとりの心に、安らぎを与えられるよう、これからも努力し続けます。

【お問い合わせ先】

TEL:0966-45-6777 FAX:0966-45-6221

生活相談員 宮原哲志



鐘ヶ丘ホーム 外観



【訪問者の感想】

訪問させていただいて、廊下・リビング・居室・すべてにおいて広い!!と驚きました。従来型の特別養護老人ホームには4人部屋がありましたが居室がとても広く、プライバシーを保てる十分なスペースがありました。鐘ヶ丘ホームのシンボルである鐘が正面玄関の屋根に設置されており、一日三回鳴らすという習慣も素敵だと感じました。

ひまわり会を開催しました!

5月20日、講師に田口ゆり管理栄養士を迎え、誰にとっても身近で関心のある「外食、中食について」をテーマにひまわり会を開催しました。

食べたい物をお腹いっぱい食べるというのは、非常に幸せな事ではありません。しかし、特に、ある程度の年齢を重ねると食べたい物をお腹いっぱい食べることに幸福感と同時に罪悪感を感じるようになる人も多いのではないのでしょうか。

せつかつくなら、好きな物を食べながら罪悪感を抱かず、幸せを感じたい!

田口管理栄養士の講義は、食べたいものを全て我慢するのではなく、天ぷら蕎麦なら天ぷらの衣を剥がす、調理方法を考え揚げ物より蒸し物を選ぶ、お弁当ならご飯がギュッと圧縮されていないものを選ぶなど、日々の生活で少し気をつけてできる

カロリーオフのヒントが沢山ありました。

食の欧米化と肥満は、生活習慣病だけではなく乳がんのリスク因子にもなっています。

某テレビコマーシャルではありませんが、私たちの身体は私たちが食べた物でできています。

食事は、自分達でできる病気の予防と治療だと思いますが、わかかっていても誘惑に負けそうになりますので、これからも管理栄養士さんの講義をひまわり会で定期的にお願いできればと考えております。

今回は、術後のリンパ浮腫をテーマに勉強会を予定しております。また、みなさん奮ってご参加下さい。



お城まつり



初めまして。研修医一年目の大西です。

平成30年4月28日に人吉市主催の「日本百名城 人吉お城祭り」が開催され、19時から行われた九日町通りでのパレードに当院も参加しました。

パレードの前にはバーベキューで美味しいお肉、ビールをいた

だいて精を付け、職員同士仲良くなってパレードに臨みました。

今年初めて参加させていただきましたが、職員同士オレンジのハッピーを着て踊り歩くのは人生初めての経験で、沿道からの声援や風船を配ったりと人吉の地域の方々と身近に触れ合うことができました。

また、いくつもの団体が踊りに参加されていて、地域に根付いたお祭りだと感じました。

それに参加するのは地域と交流を持つこととしても大切ですし、職員同士の交流の場としても重要だと強く感じました。来年も多くの方が参加して、地域の方々に身近な存在と感じていただけるように頑張ります。

臨床研修医 大西 啓志朗

新任紹介



吉田 久美子 (寝具・療養介助員)

最終卒業校：熊本県立芦北高等学校

趣味：御朱印集め、インテリア小物のお店を見る事

モットー：相手の立場になって考える事、笑顔

困ったこと：老眼が進んでいること。メガネが無いとスマホも見れません。

自分の性格：ちょっと天然であまりよくよしない事

自分のコマーシャル：まわりの方とコミュニケーションを取りながら早く仕事を覚え楽しくできるように頑張ります。よろしくお祈りします。



藤川 和泉 (医事課・医療クラーク)

最終卒業校：熊本電子ビジネス専門学校

趣味：バレーボール (体を動かすこと)

嬉しかったこと：初めて自分名義でLIVEに当選しました。

困ったこと：子どもが反抗期で反発してきます。

性格：行動派で何事もポジティブに考えることが出来ます。

自分のコマーシャル：常に笑顔を絶やさず、早く仕事を覚え、役に立てるように一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。

COOLBIZ

当院では5月1日(火)～10月31日(水)、一層の省エネルギー推進のため、執務中の服装について暑さをしのぎやすい軽装(ノーネクタイ・半袖シャツ・ポロシャツ等)を励行しております。

クールビズ活動へのご理解とご協力をお願い致します。



5月の勉強会報告

5月10日(木)ツムラ・イノベーションWEBセミナー 2ndシーズン

「消化器領域関連診療ガイドライン～六君子湯・大建中湯～」
 広島大学大学院医歯薬保健学研究所 漢方診療学 教授
 飯塚 徳男先生

4月18日(金)第99回消化器カンファレンス

「大腸ポリープの内視鏡的切除の適応について」
 当院 消化器内科 西村 淳先生
 「ご紹介頂いた患者さんの経過報告」
 当院 外科 白石 裕大先生

5月25日(金)院内勉強会

「小児難病の早期診断と遺伝カウンセリング」
 熊本大学大学院生命科学研究部 小児科学 教授
 中村 公俊先生

